

## エジプト新王国時代饗宴図の図像学的分析

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高橋, 文 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/2881">http://hdl.handle.net/2297/2881</a>

# 金大考古

第38号

## 修士論文概要 エジプト新王国時代饗宴図の図像学的分析

高橋文

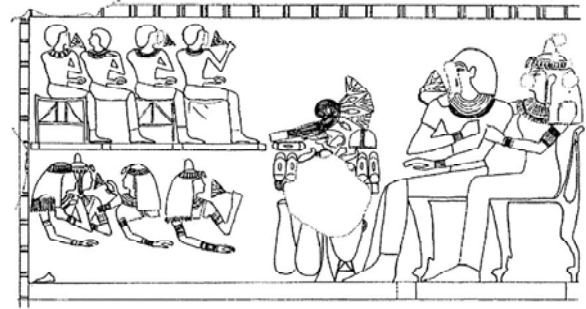
エジプト新王国時代の私人墓墓壁画には饗宴の場面がみられる。私人墓の饗宴図には、多くのヴァリエーションがあることから、饗宴内容が複数存在すると考えられている。しかし、それらがどのようなシチュエーションにおける饗宴を表したものであるのか、現在まで曖昧にしか述べられていない。本稿の目的は、ネクロポリス・テーベにおける新王国時代私人墓の饗宴図について、その饗宴内容を特定することである。

私人墓の饗宴図には、日常行われていた単なる宴会が表現されているのではない。墓壁を媒体とすることから、おそらく特別な意味をもつものである。すなわち、何らかの儀式等に伴う饗宴が表現されている可能性が高い。したがって、饗宴の場面中に、饗宴内容としての儀式が反映されている部分が存在するはずである。そして、それは図像の最も基本的要素である登場人物の中に反映されていると考えられる。

饗宴図を構成する基本的な人物は4種類で、主人、客、主人に対応する給仕人A、客に対応する給仕人Bである。この中で、まず客と給仕人Bについて、場面中での大きさやその持物や行為の特徴から、饗宴の情景を表示する役割をもつと考えられる。よって、客と給仕人Bは饗宴内容を反映していない。また、主人は場面中で最も大きく表現されるため重要である。しかし、その持物に客と同様の特徴がみられるため、饗宴内容を表示するという点において重要ではないといえる。一方、給仕人Aは、その行為が他の人物と比較して、明らかに特殊であることが分かる。具体的にいうと、給仕人Aの行為には、宗教儀礼・祭礼に関わる行為が含まれ、行為ごとに男女の区別が明確にみられる。また、給仕人Aのみ神官の姿で表されている場合がある。以上のことから、饗宴図の場面中で饗宴内容としての儀式を表示している人物は、給仕人Aであるといえる。

次に、給仕人Aの行為の特徴から、具体的な饗宴内容について考察する。給仕人Aの主要行為は4種類で、花束を捧げる、供物を勧める、煙香・

聖水を捧げる、酒杯を差し出すという行為である。したがって、饗宴内容も主に4種類あると考えられる。



供物の儀式での饗宴

花束を捧げている場合は、谷の祭りにおいてその行為が重要儀式のひとつであり、谷の祭りを表した別の場面と同壁に配置されることから、この祭りでの饗宴を表している。供物を勧めている場合は、その中のいくつかには供物のリストを伴う場面が存在すること、饗宴を伴わない供物の場面と類似する特徴をもつことから、供物の儀式での饗宴を表す。煙香・聖水を捧げている場合は、その行為が葬祭的性質が強いことと、同壁に神への儀式や葬送の儀式を表した場面が配置されることから、神または葬送の儀式での饗宴を表していると考えられる。酒杯を差し出している場合は、その行為が女性によってなされていること、唯一給仕人Bの行為と一致すること、儀式に使用される容器とは異なることから、非儀式的饗宴を表している可能性が高い。また、給仕人Aが不在の場合について、供物を勧める饗宴図と同様の特徴がみられることから、供物の儀式での饗宴であると考えられる。

これらの内容を特定した饗宴図について、時期的な変化がみられる。谷の祭りでの饗宴図は第18王朝トトメス3世からアメンヘテプ3世まで、供物の儀式と非儀式的な饗宴図は第18王朝時代、神または葬送の儀式での饗宴図は第18王朝末以降に、それぞれ限られる。このような内容の変化の背景は、私人墓の壁画全体にみられる傾向によるといえる。すなわち、第18王朝ハトシェプスト・トトメス3世時代以降、壁画主題の増加・表現の現世化・多様化等がおこり、アマルナ時代以降、葬祭儀礼に関わる主題以外表現され

なくなるという傾向が、饗宴図においても現れていると考えられる。